

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	東京経済大学 全学部(経済・経営・コミュニケーション・現代法学)	実施時期	2014年度新設 前期：後期
対象学年・学期・人数	全学年、前期、約 110 名		
講座名	情報サービス産業論		
連携企業・団体	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	高度情報社会について学生の理解を深めるために、経営学部の情報教育・産業論教育の一環として、情報サービス産業論の開講を検討した。その過程で連携団体の教育支援活動を知り、協力を要請した。その後、学内全学部に本講座を開放し、学部に拘らず履修できるようにした。		
連携の狙い、目的・目標	大学での教育は理論中心となり、学生にとって、具体的イメージを持つに至らない。また学生アンケートからも学生は働くことについて不安感があった。そこで、企業人に実際の体験や開発したソフトウェアなどを紹介していただくことにより、具体性・実践性を理解させることが目的である。		
連携にあたっての課題・懸念	学内の課題としては、既存の常設科目枠に収まらない新企画なので、特別企画講義として臨時的に開講した。連携団体拠点(横浜)からは、本学迄距離があるので、派遣講師の通勤負担をお願いすることが懸念であった。		
講座の位置づけ 既存講座との関係	既存の常設科目枠に収まらない新企画講座で、特別企画講義として開講。既存の情報科目・産業論科目を補完するものとして期待。		
履修前提条件	特になし		

授業準備と実施の体制	毎回開講の1週間前に講師・事務局からプレゼンテーション資料と当日アンケート用紙を講座担当教員が受信した。前者は学内ポータルから受講生に配信。後者は印刷して講義時に学生に配布し、講義終了時に回収して事務局に返送した。
成績評価の方法	講師の講義内容(プレゼンテーション資料)及び教科書(SE ハンドブック)を元に、講座担当教員が問題を作成して、期末試験を実施して成績評価した。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分(1コマ90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	3項の「支援企業・団体からの情報」の項参照	なし	

演習・実習の内容 必要なマシン環境 等	講義科目なので、演習・実習はない。
---------------------------	-------------------

2. 講座実施後の情報

受講者の声(受講目的、修得目標)	<p>「情報サービス産業のことが知りたい」</p> <p>「システム開発の過程など、システム開発の仕事内容を知りたい」</p> <p>「IT 業界に求められる人材とはどのような人かを知りたい」</p> <p>「就職先候補として、IT 業界についての情報・知識を得たい」</p>
受講者の感想(本講座で得られたもの)	<p>「SE の仕事について詳しく知ることができ、SE に対する見方も変わった」</p> <p>「就活についての話も参考になった」</p> <p>「SE は理系だけの仕事と思っていたが、それは間違いだと分かった」</p> <p>「身近な情報化事例を聞き、情報サービス産業について興味が湧いた」</p> <p>「就職先の選択肢を広げるうえで良かった」</p> <p>「実際に現場で活躍されている方々のリアルなお話を聞いた」</p> <p>「コミュニケーション能力が大事な、お客様と関わる仕事だと思った」</p> <p>「女性でも活躍できることを知り、勇気が出た」</p>
先生の評価	<p>高度情報社会の今日、学生も PC・携帯電話・スマートフォン等でインターネットのコンテンツや各種サービスを毎日利用している。しかしその背後に何があるかについて、情報技術的にも産業論的にも学生には関心・理解がなかった。本講座はこれを補う目的で開講した。一連の講義で受講生の理解・知識不足を大幅に埋めることができ、目的を達成できた。情報技術の知識だけでなく、各社の事例や講師の経験を毎回異なる講師が話して下さるので、多面的な理解が得られ、毎回新鮮であったと受講生からは好評であった。講師の話には、就活準備・社会生活・仕事の心構え等、通常の講義では聞けない内容も含まれていた。実社会での経験に基づくこのような話は説得力があり、受講生にとって参考になったようである。</p> <p>改善を要する点について、受講生から以下のコメントがあった。</p> <p>「理解できない専門用語があった」</p> <p>「パワーポイントの字が小さくて見難かった」</p> <p>「スライド 1 枚毎の説明が短く、枚数が多過ぎると思う場合があった」</p>
企業・団体による評価	<p>学生に IT 業界について知って貰える場を頂けたことは意義がある。毎回の講義にそれぞれの担当教授が積極的に関わって頂いて当講座への大学としての協力的姿勢を感じる。</p>
今後の展望(継続に向けた課題)	<p>受講生にとって有意義な講座なので、毎年開講したい。しかし常設科目枠に入らない特別企画講義なので、学内の制度上、毎年開講ができない。連携団体の協力を得られれば、できれば隔年開講でも継続していきたい。</p>

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称:大学向けSE講座 講義形式:SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会(会員企業の認定講師)	費用	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義:01(ガイダンス) 講義:02(SEとは) 講義:03(SEのマネジメントスキル) 講義:04(情報システムの企画と提案) 講義:05(システム設計の概要) 講義:06(システムテストと運用テストの意義) 講義:07(情報サービス産業界の現状) 講義:08(データベースの知識) 講義:09(ネットワークの知識) 講義:10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義:11(プロジェクトマネジメント) 講義:12(SEのベーススキルと関連知識) 講義:13(特別講義、システム化事例紹介) 講義:14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		